

Editor's Note

『現代ディスクロージャー研究』第12号は、カンファレンスの報告論文1本とその討論、自由投稿論文1本、実務展望1本を収録しました。各分野をリードする研究者から最先端の研究を投稿していただき、心より御礼申し上げます。また、会員の皆様におきましては、快く査読委員をお引き受けいただき、長期間にわたって審査を担当していただきました。査読委員による適確なコメントは、本学会誌の質的水準の維持・向上にとり最も重要な要件であります。この第12号においても、コメントを通じた修正により、投稿論文が改善されて、貴重な研究を掲載することができたと思います。本学会誌の編纂に携わったすべての会員の皆様にあらためて感謝申し上げます。

本学会誌は國村道雄初代委員長、須田一幸第二代委員長、薄井彰前委員長及び各編集委員会編集委員のご尽力によって編集・出版されてきました。特に、薄井前委員長を中心とする委員会において、編集規程、投稿規程などの作成・整理、カンファレンス・大学院生セミナーの開催など多くの改革がすすめられました。この3年間はこれらを基本とし、当学会誌の編集委員会を運営してまいりました。この間、ディスクロージャー研究会と経営ディスクロージャー研究会が統合し、現在の日本ディスクロージャー研究会になりました。その統合後においても、従前の厳格な審査体制を堅持して、その編集を行ってきました。特に、15名の編集委員の先生の方々には、論文の査読をはじめ、積極的で素早い審議、カンファレンスにおける司会やコメンテータの担当など、3年以上の長期間にわたりご協力頂き、本当に感謝申し上げます。

この3年間に非常に残念なことといたしまして、須田一幸先生が2011年5月31日にご逝去されました。須田先生は、編集委員長（2002-2005年）、事務局長（2005-2009年）、副会長（2005-2011年）とディスクロージャー研究会の発足以来、当該学会の管理・運営に多大なご尽力をされました。須田先生がお亡くなりになられたのは、本学会のみならず、我が国のディスクロージャー研究にとって、本当に残念であり悔やまれてなりません。本学会では、故人を偲ぶとともにそのご功績を讃え、故須田先生追悼事業をたちあげて、追悼号の発行を計画しています。この追悼号の編集につきましても、力量不足ですが引き続き担当させていただきますので、会員の皆様のご協力・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

これまで通りの投稿論文を対象とする研究誌の編集につきましては、次号からは中條祐介編集委員長が担当いたします。新委員長のもとで『現代ディスクロージャー研究』が飛躍的な発展を遂げることを信じています。会員の皆様におきましては、変わらぬご協力とご支援を心からお願い申し上げます。

研究誌編集委員長

吉田和生

編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第12号の編集状況は次の通りである。すべての原稿は、研究誌編集委員会が採否を決定した。論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。

| | |
|-----------|--------|
| 論文セッション | |
| 受付数 | 3 |
| 受理数（採択率） | 2（67%） |
| 討論セッション | |
| 受付数 | 1 |
| 受理数 | 1 |
| 実務展望セッション | |
| 受付数 | 1 |
| 受理数 | 1 |

研究誌編集委員会

謝 辞

査読委員の長期にわたる真摯なレビューがなければ、学会誌の品質はけっして確保できませんでした。現代ディスクロージャー研究編集委員会は、ここに記して、第12号の査読委員、並びに、査読プロセス中のために第11号で掲載を差し控えさせて頂いた査読委員の皆様へ感謝の意を表します。謹んで御礼申し上げます。

| | |
|-------|--------|
| 石川 博行 | 大阪市立大学 |
| 上枝 正幸 | 青山学院大学 |
| 榎本 正博 | 東北大学 |
| 奥田 真也 | 大阪学院大学 |
| 奥村 雅史 | 早稲田大学 |
| 音川 和久 | 神戸大学 |
| 北川 教央 | 神戸大学 |
| 竹原 均 | 早稲田大学 |
| 吉田 靖 | 千葉商科大学 |

(敬称略、五十音順)

研究誌編集委員会